



Title	「大阪大学・チュラーロンコーン大学日本文学国際研究交流集会」活動報告
Author(s)	
Citation	詞林. 2010, 47, p. 50-51
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/67613
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「大阪大学・チュラーロンコーン大学 日本文学国際研究交流集会」活動報告

去る三月十一日、本学侍兼山会館において「大阪大学・チュラーロンコーン大学日本文学国際研究交流集会」交叉する時空——と題した研究フォーラムが開催されました。本研究会も共催として参加しましたので、ご報告いたします。

この集会は、タイのチュラーロンコーン大学と大阪大学の

日本文学研究者が集い、研究交流の場をもつことを目的としたものです。阪大側も、留学生を中心に発表者を募り、事前の勉強会を重ね、当日を迎えるました。

当団は、他分野の方々も多くご参加下さり、充実した集会となりました。終始アットホームな雰囲気でしたが、両大学の大学院生による、『枕草子』から現代文学まで多岐にわたる研究発表には、さまざまな関心からの議論が展開されました。今回は、九本の研究発表を三ブロックに分け、各ブロックにディスカントを設けるという形式を試みましたが、発表の論点や課題がフロアに示され、議論を促す有意義なものだたたと思います。特に発表者と留学生が議論を繰り広げる光景は刺激的で、世界文学としての日本文学の可能性を実感する場となりました。

最後に、チュラーロンコーン大学のドゥアンテム・クリサダーゲーノン先生に、今回の集会の総評をお願いし、今後も情報交換の場を設けたいとのコメントをいただきました。

この集会は、かつて阪大で学ばれ、現在はチュラーロンコーン大学助教授として活躍しているアッタヤ・スワンラダー氏や、荒木浩先生のご尽力によるところが大きいものですが、これを機会として、継続的に交流してゆきたいと考えています。

なお、今回の成果は、チュラーロンコーン大学で刊行される論文集にまとめられる予定です。ここには、当日のプログラムを掲載します。

(丹下)

大阪大学・チュラーロンコーン大学

日本文学国際研究交流集会——交叉する時空——

日時 二〇一〇年三月十一日(木)午後一時~

会場 侍兼山会館二階会議室(大阪大学豊中キャンパス)

主催 大阪大学日本文学研究室・チュラーロンコーン大学文

学部東洋言語学科日本語講座

共催 大阪大学文学研究科・国際交流基金・大阪大学古代中世文学研究会

開会の挨拶

荒木浩（大阪大学教授）

莊千慧（大阪大学大学院生）

〈第一「プロック」〉

ディスカサント
〈第二「プロック」〉

①Marin Viriyapongpanich（マーリン・ヴィリヤポンパンピーチ）「『枕草子』における『顔』に関する記述について」（チャラーロンコーン大学大学院生）

Jittapa Nittisiri（チッターペー・ニティスィリ）「『100年の枕』における『顛立、時間と周縁の力』」（チャラーロンコーン大学大学院生）

②宮川真弥「『枕草子春暦抄』『清少納言枕草紙抄』の『原拠本』について—『徒然草文段抄』所引『枕草子』を手振りに—」（大阪大学大学院生）

Karina Nabandian（カーニナ・ナルバンディアン）「*The Tale of Genji*における変更—『源氏物語』の111の英訳」（大阪大学大学院生）

③Penporn Kaewfoongrungsi（ペンポーン・ケオフォンランチャイ）「韻語を素材とした芥川龍之介作品の特徴—桃太郎を中心として」（チャラーロンコーン大学大学院生）

ディスカサント ホルカ・イリナ
荒木浩（大阪大学教授）

〈第三「プロック」〉

④カナパット・ルーンピーロム（Kanapat Ruenpirom）「『曾我物語』における北条政子の説話—苦悩の克服の様相」（チャラーロンコーン大学大学院修了、大阪大学大学院研究生）

Duantem Krisdathanont（ダウテン・クリサダーターノン）（チャラーロンコーン大学教員）

⑤Puttarak Kate-een（パッタラック・ケイトーン）「『淫獣』に見られる共同体社会の変化とその影響」（チャラーロンコーン大学院生）

Attaya Suwanrada（アッタヤ・スワンラダー）（チャラーロンコーン大学助教授・大阪大学外国人招聘研究員）

⑥モハッマド・モインウッディーン（Md Moinuddin）「志賀直哉『十一月三日午後の事』をめぐって—他者へのまなざし」（大阪大学大学院生）

（チャラーロンコーン大学院修了）